○村上智行委員長　続いて、日本共産党宮城県会議員団の質疑を行います。
なお、質疑時間は、答弁を含めて十分です。天下みゆき委員。
○天下みゆき委員　日本共産党県会議員団の天下みゆきです。
高校教育改革推進事業について伺います。
文部科学省のＮ―Ｅ・Ｘ・Ｔ・ハイスクール構想関係基金を活用したオンライン教育センターの設置、四圏域進学系拠点校と仙台市内ナンバースクールの取組、工業高校、水産高校の四つの取組は総額六十二億円に上る国費が投入される事業ですが、これまで採択されたのは水産高校の陸上養殖・水産イノベーション教育拠点事業のみでした。ほかの三つの事業については、現在再申請して十月下旬に採択結果が公表されるとのことですが、採択の見通しと、万が一不採択となった場合の財源確保策について伺います。
○小野寺邦貢教育委員会教育長　今回の再申請に当たりましては、大学・企業等との連携・協力体制の構築のほか、授業をはじめとする学校の教育活動への反映の具体化など、前回の申請の際に国から示されました全ての指摘事項を改善して臨んでおりまして、事業が採択されるよう、県教育委員会として今全力を尽くして取り組んでいるところでございます。仮にその一部が不採択となった場合には、その後の再々挑戦が可能なのか国に問合せをいたしまして、また、どれぐらいの金額が不採択になったのか、金額によりますけれども、果たしてほかの手だてがあるのか対応を検討してまいりたいと考えております。
○天下みゆき委員　この文部科学省の基金事業の期間は令和八年度から十年度の三年間です。四つの事業合計で令和八年度の当初及び補正予算が三億二千四百五十九万円、令和九年度が三十一億二千五百万円、十年度が二十七億五千百万円の予算見込みと伺っています。特に工業高校や水産高校は十年度の予算規模が大きく、果たして令和十年度までに完了できるのか危惧されますがいかがですか。
○小野寺邦貢教育委員会教育長　工事の実施に当たりましては設計や施工に一定の期間を要しますけれども、できる限り早く設計に着手いたしますとともに、進捗状況を的確に精査・管理いたしまして、現在のところは、事業期間である令和十年度までに完了するように計画的に進めてまいりたいと考えております。
○天下みゆき委員　財源の見通しとか事業期間など、まだ不安を拭えない状況も一方で

あります。教育長としてはこの四つの事業は採択されなくても、期間が延びても必ず実施するということですか伺います。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　ここで、採択されなくても、期間が延びてもやりますと述べるのはできないですけれども、採択されるように、期間が延びないように八から十年度までに終わるように、そういった気持ちで全力を尽くして取り組んでいきたいと考えております。

○天下みゆき委員　次に、オンライン教育センターについて伺います。

質の高い学びを保障するためには、配信側の先生は、生徒の質問に答えるとか生徒の理解の度合いを見ながら授業を行うなど、生徒との双方向での関係づくりが必要だと思いますがどのように行うのか、その際、受信側の先生の役割も併せてお答えください。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　オンライン授業が効果的で質の高い学びにつながるよう、配信側の教員は年度はじめに受信校を訪問いたしまして、生徒と直接対応して関係づくりを行いますとともに、配信では授業の中に問いかけの場面を多く入れたり、授業後に生徒からの質問に答えたりするなど、双方向型の対応を通じまして生徒の理解度を把握しながら授業を進めてまいります。また、受信側の教員でございますが、配信側の教員の目が行き届くように生徒への直接の声掛けを行ったり、分からないところを聞き取って配信側の教員に伝えたりするなど、授業の質の向上に寄与しているところであります。県教育委員会といたしましては、こういった今の取組を今後も教員研修等により、配信側及び受信側双方の連携体制の充実に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

○天下みゆき委員　全県立高校をネットワーク化するということですが、高校教育は各学校に必要な教科の教員を配置して対面で行うことが原則だと思います。今後、教員確保を優先して、オンライン授業に安易に頼るべきではないと思いますがいかがですか。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　高校教育におきまして、各学校に必要な教科の教員を配置し対面で授業を行うことは、生徒の豊かな人間性や社会性を育み、学びを深めるために重要であると認識しています。県教育委員会では、これまでも法令に基づきまして各学校の規模や実情に応じて適切な教員配置に努めておりまして、引き続き対面授業の充実を図るとともに、多様な学習ニーズに対応する選択科目の確保など、豊かな学びを

提供するためオンライン技術を活用するということでございます。今後とも対面とオンラインの学びを効果的に融合させまして、質の高い学びにつながる授業の実現に取り組んでまいります。

○天下みゆき委員　次に、進学力向上の取組について伺います。

具体的にどのような授業がどのような頻度で、どのような形態で行われるのかお答えください。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　仙台一高を拠点校とする取組でございますが、各教科におきまして大学等とも連携しながら、生徒が教科横断的な視点で社会課題等について学ぶことができる授業を行ってまいりたいと考えております。更に、八校の協力校との連携を進めまして各学校の特色を相互に生かしながら、年間を通じまして講演会であるとか学習成果発表会、こういったことを共同で実施することによりまして、地域や学校の枠を超えて生徒が刺激し合い、相互に気づきを得る場を創出してまいりたいと考えております。

○天下みゆき委員　この事業は現場で働く先生方にはまだ十分に伝わっていないようです。授業を行うのは先生方であり、この取組は忙しい先生方に新たな負担増を強いるおそれがあります。構想の段階から関係する学校現場との協議が必要だと思いますがいかがですか。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　本事業の申請に向けましては、計画段階から関係する学校と丁寧に意見交換を重ねまして、学校現場の実情や意見を十分に反映させながら内容の検討を進めてきたところでございます。また、事業の実施に際しましては学校現場の教職員に過度な負担が生じることのないよう、例えば生成ＡＩの活用であるとか、できる限り会議を少なくいたしまして、また外部委託も進めるなどいたしまして、具体的な負担軽減策を検討してまいったところでございます。今後も、関係する教職員の皆様との意見交換を更に丁寧に行いながら、全ての教職員の皆さんが安心して教育活動に取り組める環境を整えるとともに、魅力のある学校づくりを今後ますます進めてまいりたいと考えております。